

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（文学）	氏名	郭 閔華
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 中国における日本サブカルチャーの受容に関する研究—アニメ受容の史的展開—			
論文審査担当者			
主査	教授	河西	英通
審査委員	教授	佐藤	利行
審査委員	教授	高永	茂
審査委員	准教授	衛藤	吉則
審査委員	聖徳大学教授	増井	三夫
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、日本のソフトパワーを代表するアニメーションが中国においていかなる伝播・受容・翻訳の過程をたどってきたのかを、現地調査もふまえて歴史的に解明することで、現代中国におけるサブカルチャーの実態を詳細に明らかにすると共に、国境を越えた日本アニメ文化の発展性についても考察を加えた野心的な研究である。</p> <p>本論文は、序章、本論第一章～第五章、および終章の全7章によって構成されている。</p> <p>第一章「中国における日本製アニメのテレビ放送の展開」では、従来必ずしも具体的なデータが明らかではなかった日本アニメの中国への伝播・受容状況について、1980年代以降の上海地域におけるテレビ局の開局状況や日本製アニメの放送状況の分析を中心に、また北京・福建地域との比較を行うことで、テレビ放送を通じた日本製アニメの中国社会への浸透について詳細に跡づけている。</p> <p>第二章「インターネットにおける日本製アニメの配信」では、今日の中国において日本製アニメの受容がテレビ放送ではなく、インターネット配信によって展開していることに注目して、その実態についてアップロードとダウンロードの数値を詳細に分析している。そしてこのネット配信の過程から、たんなる「受け手」ではなく「送り手」の役割をも担うファンサブ（サブタイトルを翻訳するグループ）が誕生してきたことを論じている。</p> <p>第三章「ファンサブにおける日本製アニメの受容」では、近年見られる中国政府による国産アニメ支援政策と日本をはじめとした海外アニメの抑制政策のはざままで急速に拡大し、競争的に翻訳を行っているファンサブについて、①歴史、②翻訳の手順、③実態、④法律問題、⑤ファンサブに関する論説などについて整理し、中国サブカルチャーに占めるファンサブの位置づけを行っている。</p> <p>第四章「ファンサブの実体に関する量的調査」では、ファンサブの意識のありようを知るために、みずからファンサブの成員になり、その活動実態を体験すると共に、8つのファンサブにアンケート調査を試み、ファンサブ成員の実態—その属性、翻訳活動と日常生活の関係、日本製アニメに関する意識などを分析している。</p> <p>第五章「ファンサブの意識に関する質的調査」では、アンケート調査への回答者の中から、日本製アニメへの愛着の度合いに関してインタビュー調査を行い、ファンサブへの加入動機や活動実態、あるいは活動を継続しうる環境などについてもさらに深い分析を加えている。グラウンデッド・セオリー・アプローチによって、ファンサブの社会的存在を概念化することも試みている。</p> <p>終章「文化受容に関する考察及び総括」では、ファンサブの存在を通して日中間のサブカルチャーの形成と展開を論ずる重要性を指摘するとともに、ファンサブとは様々な制約のなかで新しい文化受容・文化発展を可能とする存在であることを論じている。</p>			

本論文は、豊富な調査内容をふまえて、他国のサブカルチャーが自国の文化状況全般に対していかなる衝撃と影響を与えながら、新しい文化がどのようにして生まれてくるのか、という問題を日中の事象を対象としながらも、広くグローバルな見地から解明しようとした実証的かつ理論的な研究である。日本語の表現力に改善の余地が見られ、サブカルチャー総体の位置づけや方法論上の問題など、検討すべき課題もあるが、ファンサブという文化集団の研究としては先駆的にしてユニークな研究成果であるだけでなく、今後の若者文化研究、サブカルチャー研究に資する重要な論文と評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。